



神の啓示

ケムトレイルアート写真集

★まえがき 「ケムトレイルを撒く科学の種族」

一般的に、遠い宇宙から来た宇宙人がUFOに乗って地球にやってきている、ということになっている。しかし、UFOに乗っているのはぼくらと同じ地球人である。彼らは、ぼくらの先祖と遠い昔に別れた。袂を分ったのだ。彼らの正体は、聖書に「カインの血統」と記されているエラド、マハラエル、トバルカインである。

3万年前、聖書の血統であるエノク、エノス、メトセラが古代ギリシアを旅立ち、大いなる航海の旅に出た。彼らは海岸伝いにヨーロッパ、アイスランド、アメリカ大陸へと漕ぎ出した。そして、最終的にマヤを経てペルーに入植した。ペルーにレメク、エラド、マハラエル、トバルカインが生まれた。リマの古名リマックはレメクの名残りである。

その後、ペルーの人口密度が過密状態になると、エノクはエノス、一部エラド、マハラエル、トバルカインを連れて東アジアに向かい、レメク、メトセラ、一部エラド、マハラエル、トバルカインはペルーから南極大陸に入植した。当時、南極大陸は今よりも北方に位置しており、広大な大陸の半分は凍結していたが、半分は凍結を逃れていた。レメクらは凍結を免れた土地に都市を築き、科学文明を発展させた。その後、南極にノア、セム、ハム、ヤペテが生まれている。ギリシア人の顔をした彼らは南極で碧眼・金髪・白い肌を手に入れた。いわゆる北欧人（白色人種）の誕生である。

一方、アイヌ族（エノクの名が由来）となり、北海道を拠点にシベリア、モンゴル、東アジア君臨していたエノクたちは、レメクたちが築いた洗練された文明都市の噂を耳にし、ウルチ族（エロス）を仲間に迎え、大挙して南極大陸に向かう。こうして、東アジア人の顔をした人々と北欧人の顔をした人々が南極大陸に共存していた。

北欧人の顔をしたエラド、マハラエル、トバルカインは科学の道を究め、核兵器も所有していた。彼らは、核兵器を使用して地軸を揺らし、南極大陸を完全に北方に引き上げて全大陸の土地を有効活用しようと考えた。なぜなら、南極はタナトスがない唯一の清らかな土地だからだ。科学の種族は、ウソをつき、殺戮を楽しみ、人肉を食べる人喰い人種と共存することは不可能と考えていた。核兵器で地軸を揺らして南極を北方に引き上げる計画は、それゆえの計画であった。

この計画には、北欧人組のノア、セム、ハム、ヤペテ、メトセラ、レメク、東アジア組のエノク、エロス、エノス、エラド、マハラエル、トバルカインが反対していた。また、スーサに住んでいたゼウス（セツ）もこの計画に異を唱えていた。ノア、エノク、エノスたちは事前に脱出用の船を建造し、ゼウスはオーストラリア大陸に赴いてティタン神族（デウカリオンとピュラ）に警告を促した。

1万3千年前、科学の種族が計画を実行すると、巨大な核兵器の力により、確実に地軸は揺れ

だが、地球は逆に南方に傾いてしまい、南極大陸は完全に凍結した。それと共に、大地殻変動が起き、南極と北極の氷が一気に解けたため、全地球の海岸部は9日間、海の底に沈んだ。

これを機に、栄光の南極の種族は文明放棄組と文明継承組に分かれて南極を後に、新天地へと漕ぎ出した。東アジア人組のエノク、レメク、エラド、マハラエル、トバルカインと北欧人組のレメク、ヤペテが東アジアに入植した。東アジア人組のエノス、エロス、エラドと北欧人組のハムは西アフリカに入植した。そして、北欧人組のノア、セム、ハム、ヤペテはスカンジナビアに入植した。

一方、デウカリオンとピュラはインドでヴァラナシ族を迎えてメソポタミアに入植し、ゼウスの拠点スーサに身を寄せた。デウカリオンとピュラはティタンに囚んでタタを、タルタロスに囚んでタルタルなどを称した（タタはアーリア人と合体してタタール人となり、伊達氏の祖となる）。その後、デウカリオンはピラミッドの種族ティカル人となり、ヴァラナシ族はヘレネス人となって現代ギリシア人の祖となる。

そして、科学の種族エラド、マハラエル、トバルカインは原動機付きの飛行機でスコットランドに入植した（彼らはこの地でUFOを開発した）。彼らは、アイルランド、北アフリカ、故地ペルー近辺のナスカに基地を建設した。

科学の過信が、とんでもない災厄を引き起こすことを身を持って知ったエノク、エノス、ノアは頑なに文明を拒否した。そのため、エノクの子孫であるインディアン、マヤ人、縄文人、エノスの子孫であるアフリカ人、セム・ハムの子孫であるサーミ人、ハミ族は反文明を貫いた。

しかし、同時期に世界各地に蔓延っていたタナトスが、ぼくらの先祖である文明放棄組を宗教にとって家畜化することを覚え、ウソと脅迫と暴力と欺瞞で大量の信者を獲得した。そしてタナトスは、英雄時代を迎えた文明放棄組が作った巨大な帝国や偉大な王国に悪徳神官として巣食ってきた。

一方、科学の種族は罪滅ぼしのため、文明放棄組の動向を陰日なたから見守っていた。バベルの塔、ソドムとゴモラの件は、タナトスと、生活を保障してもらう為に悪との戦いを放棄し、タナトスに追従する情けない兄弟に対する、科学の種族による鉄槌であった。特に、トバルカインは兄弟であるのあの長子セムの子孫（アブラハム、ロトなど）に目をかけ、助けてきた。それらは聖書に説話として紹介されている。

現代になり、タナトスは化学で人類を攻撃することを学んだ。彼らは何かを破壊したい時、破壊という言葉はチョイスしない。代わりに、治したい、守りたいなどの言葉を選ぶ。十字軍時代にはキリスト教徒、キリストの信仰、キリストの聖地エルサレムを守ると称して、イスラム圏、ビザンツ圏を完膚なきまでに破壊した。

現在、彼らは、減少していく農民を救って農業・世界経済を守るため、害虫から農作物を守るため、害虫・細菌から子どもを守るため、食中毒から人々を守るため、害虫による森林破壊を防止するためなどと称して農薬（除草剤・殺虫剤・殺菌剤）を待ち散らしている。彼らが何かを守りたいと言う時、その実、彼らは何かを破壊したがついていてと心得たい。この場合、彼らは人類

と人類の生活を破壊したがつているのだ。

農薬散布により、世界中の人々が化学アレルギーで苦しんでいるが、医者（ほぼタナトスの血族）は兄弟である農薬企業を保護する為、化学アレルギーを花粉症である、食物アレルギーであるなどとウソをついている。そのため、多くの子どもたちが別の病気の診断をされ、殺されている。これが、真に化学兵器によるテロである。

科学の種族はこれを見て憤慨し、かげながら農薬による害を軽減しようと世界中にケムトレイルを撒いている。そう。上空にケムトレイルが撒かれている土地は、永年の農薬散布によって激しく汚染されていることを示している。特にアメリカでケムトレイルが多発しているが、これはアメリカの土地がひどい状態にあることを示している。逆に、砂漠など耕作地がない、人類が居住していない僻地でケムトレイル発見の報告はない。

筆者の住む土地でも近年、ケムトレイルが多発している。それは土地賀ひどく汚染されている証明だ。また、それを証明するようにウンカなどの害虫だけでなく、かたつむり、各種カエルなどが消滅した。このように荒廃した土地で、アホな仏教信者たちは楽しいフリをして暮らしている。科学の種族が情けない、こんなやつらは滅ぶのが道理、と思うのも無理はない。科学の種族は変幻自在に飛ぶUFOを有しているだけでなく、生物の思考を無意識レベルで読み、生物を操作し、テレポートもできる人々である。彼らは、科学を悪用するタナトスを許すことができない。

ということで、2016年。彼らは、ぼくにアスタリスク、英語のZなど、隕石や終焉を意味するケムアートを披露していた。本書は、ぼくが散歩中に撮影した、宇宙人（科学の種族）が描いたケムトレイルアートを集めた写真集である。



ピラミッド型ケムアート。意味は不明だ。

イメージ1

ぼくはこの時、北に向かっていました。しかし、当時は分らなかったが、向かう方向にゴルフ場があるのだ。知らずにいつも通っていたが、大谷がぼくに除草剤を浴びせる為に、ゴルフ場で待ち受けていることを知った宇宙人が、そのことをぼくに知らせるために、羽虫を操って眼に突入させ、同時に空に巨大なバツを書いたわけです。

「散歩中止しろ」という警告なので、すぐに家に帰って目を冷やしました。散歩中は、大谷が方々でぼくに除草剤や殺虫剤を浴びせようと待ち構えているので、彼らの心を読んだ宇宙人がテレパシー以外のあらゆる方法（jケム、虫、鳥）でぼくに警告をくれます。科学の種族は思考を読み、虫などの生物を操ることもできる。

宇宙人による生物の操作について：科学の種族は、その比類なき科学力により、生物を操作できる。特によく見るのが昆虫と鳥だ。ぼくが向かう方向に危険が待っていれば鳥類、昆虫類が横切ります。例えば、トンボ、ハチ、アブ、シラサギ、カラス、ムクドリ、スズメ、ツバメ、科学の種族の飛行機まで、空を飛んでいるあらゆるものがぼくの進路を横切ったりする。これはいずれも「先に進むな」というメッセージだ。カラス、ムクドリ、スズメみたいな鳴く鳥は、鳴き声で危険を知らせることもある。

一番驚いたのが、羽虫の大群である。最寄の河原を散歩中、マイクロイドSに出てくるような羽虫の大群がぼくの進路を遮っていた。高さ4 m、厚さ5 mはあったでしょうか。あんなの今まで見たこともなかった。当時、ぼくは大谷が虫を操っていると考えていた為、「また散歩を邪魔する気か。意地でも通ってやる」と、大群につっこんだのだが、鼻に入るわ、耳に入るわで、先に行くのを断念したことがある。これも宇宙人が「河原の先で大谷が除草剤を撒いているから行くな」ということだったのです。

この羽虫には世話になっており、頻繁に目に入るのは高校時代からあった。余りに頻繁に目に入るので「俺は呪われてるのか」といぶかしがったほどだ。が、今から考えれば、これはぼくが農薬濃度が濃い田んぼの農道を通学路にしていたため、「こんなとこ通るな」というメッセージと受け取ることができる。しかし、それに気付かず、農道を通り続けたせいで、有機リン殺虫剤に被爆して、高校在学中は強めの偏頭痛と便秘に悩まされていた。

「虫は宇宙人が操っているんじゃないか？」ということに気づいたのは、じつは、つい最近だ。だが、昔からハチに威嚇されたり、スズメバチが体ギリギリで飛んできたりしていた。カナブン、セミなどの硬い昆虫が顔めがけてぶつかってきたりもある。一番びびったのが、スズメバチが目に入ったことだ。このときは、海辺の水産加工場密集地を通過していたが、水産物には殺菌剤がかけられる。「その地域は殺菌剤で汚染されているから来るな」と言うメッセージだったわけです。当時はそういうメッセージを理解することもなく、ただ怖くて、笑 さすがにもうあれ以来行ってないのだが。

「言葉で言えばいいのに」とみなさんは思うかもしれないが、これが科学の種族（文明継承組）の、文明放棄組の子孫に対する接触方法なのだ。彼らは、ぼくに考えさせることで、ぼくを育てようとしている。彼らのメッセージに気付けば助かるが、気付かなければ終わりなのだ。彼らは、非常に厳しい。体育会系の教官、または、芸術家、職人の師匠のような感じなのだ。

4月19日 「そっち行ってもいいよ」

イメージ1

ぼくの上空、真上に浮かぶ、ぼくがこれから向かおうとしている方向に伸びる1本のケム。そっちは安全だから行ってもいいよ、ということの意味している。

イメージ2

空に描かれた巨大なアスタリスク。アスタリスクは星を意味する記号だ。つまり、ぼくはこれを隕石と解釈した。科学の種族が隕石を落とそうとしていることを表している。彼らは、地上に蔓延り、環境を破壊し、正しい人々を虐げるタナトスに怒り心頭なのだ。

イメージ1

別の角度から捉えたアスタリスク。翌日、フジテレビが同じような、しかし、精度では劣る写真を持ち出して、「自然現象である」と断じて、ケムトレイルであることを否定していました。

4月25日 「カウントダウン」

[イメージ2](#)

たまに見る、ケムでかけられたカウントダウン。端から順番に消えていく。

5月8日 「千？」

イメージ1

千といえば千利休かと思ったが、考えてみれば千年王国もあった。ハルマゲドンと関係あるのだろうか？宇宙人はハルマゲドンを示唆しているのか。

イメージ3

迂回けむ

イメージ1

公園で休んでいた時に撮影。早く公園から出る、と解釈した。

6月5日 「なんでもないケム」

イメージ1

特に意味はなさそうなケムアート。ちょっとアスタリスクになりかけているようにもみえる。

6月6日 「カニのハサミ」

イメージ5

巨大なカニのはさみに見える

6月6日 「カニのハサミ 2」

イメージ2

別角度から撮影。自宅上空に浮かんでいる。

6月6日 「カニのハサミ 3」

イメージ4

ベランダから東の空を撮ったもの。

6月7日 「猛禽類？太陽神ホルス？」

イメージ5

猛禽類といえば太陽神ホルス。

6月7日 「神の弓矢」

イメージ4

弓矢のようなケムアート。

イメージ3

向かおうとしている方向の上空に巨大なバツが出現した。こっちへ来るなと言うサインである。警戒しながら行ってみたら仏教信者が大勢待ち構えていた。いつものことだが、大谷の命令により、信者らはぼくを睨んだり、行く手を邪魔したり、笑ったりするために準備されていた。

6月7日 「薄いy」

イメージ1

世界の終わりの寸前を意味している。

6月10日 「意味不明な記号」

イメージ3

なんか古代エジプト文字かメソポタミア文字みたいなケムアート。

6月10日 「迂回のサイン」

イメージ2

向かおうとしている上空に出現。迂回しろ、と言うサイン。

6月10日 「巨大なVサイン」

イメージ1

田んぼの真ん中に浮かんだ巨大なVサイン。

6月17日 「酒屋の上空のy」

6月17日 「不自然な1本筋ケム」

イメージ2

空にわざとらしく浮かんだケム1本。何を意味するかは不明だ。

7月?日 「山頂のZ」

イメージ2

こんなにはっきりした「Z」は珍しい。皆さんはこれを自然現象と断言できますか？世界の終焉を予告する科学の種族によるケムアート。

7月15日 「王」

イメージ4

夕刻の空に浮かぶ「王」の字。

7月15日 「巨大な女性器」

イメージ1

天から生まれた神が地上に生まれることを予言しているのか？

7月17日 「オロチ」

イメージ1

何かを喰おうとする巨大オロチ。ご丁寧にも、歯がちゃんと書かれている。

7月16日 「大文字のJ」

イメージ1

大文字のJ、或いは大文字のTに見える

7月16日 「目玉？女性器？」

イメージ2

目玉のような、女性器のようなケムアート。

7月16日 「ンは世界の終わり」

イメージ3

不鮮明だが、カタカナの「ン」のようだ。これは英語の「Z」同様に世界、或いは文明の終焉を意味している。

7月18日 「Zは世界の終わり」

イメージ1

科学の種族はよく「Z」を描く。これは世界の終焉を意味している。

7月18日 「赤いZ」

イメージ2

夕焼けに赤く染まる「Z」。つまり、長いこと「Z」の文字は消えなかった。

7月26日 「巨大な7」

イメージ2

空に出現した巨大な7。何を意味するかは不明だ。

7月26日 「空に人が」

イメージ3

ふと空を見上げると「人」の字が浮いていた。

7月26日 「S？」

イメージ5

謎の文字、或いは記号。

7月26日 「意味不明の記号」

イメージ6

謎の暗号

イメージ6

巨大な流の断末魔。龍といえば大谷、或いは九頭龍である。

イメージ4

「グアアアアアア、やられたあああ」という感じですね。

7月22日 「真夏のZ」

イメージ5

薄めだが「Z」です。

7月22日 「真夏のX」

イメージ3

大小のXが書かれている。

8月5日 「大」

イメージ5

上空に漢字の「大」。意味は不明だ。

8月5日 「J」

イメージ4

英語の「J」。意味は不明だ。

8月5日 「九州、四国、北海道が消えた」

イメージ2

夕刻、ウチのベランダから撮影。九州と四国と北海道が消された、本州だけになった日本のようだ。

8月5日 「空に浮かぶ提灯アンコウ」

イメージ1

ちょうちんあんこうである。あんこうといえは深海魚である。つまり、地震と関係性が有ると見られる。

8月?日 「勝利のV」

イメージ5

勝利の「V」のようだ。

8月?日 「もう少しで世界が終わる Y」

イメージ4

もう少しで世界が終わると言う意味をこめた「Y」

8月?日 「巨大な龍」

イメージ3

何かを喰おうとしている巨大な龍のようだ

8月?日 「巨大な龍2」

イメージ2

散歩中、別の角度から撮った巨大な龍。このようにケムアートはなかなか消えない。

8月?日 「ラッキー7?」

イメージ1

巨大な「7」。ラッキー7か?或いは「つ」?。カタカナの「フ」?

8月?日 「虫ふー」

イメージ2

「

「虫ふー」と読むことができる。

8月?日 「ママ?」

イメージ1

「ママ」と読むことができる。意味は不明だ。

イメージ5

地球の自然を守るためにケムトトレイルを撒き、ケムアートを描いてぼくに暗号を送る飛行機型UFOの姿です。これに「フェニキア人の大航海時代 年表最新版」に紹介している宇宙人（科学の種族エラド・マハラエル・トバルカイン）が乗っています。見た感じ早期警戒機に似ているが、テレポートできるし、透明にもなれるので普通の飛行機じゃない。

イメージ3

撮影している時に、再度同じ方向から出現した早期警戒機型UFO。何j回も来る時はぼくに何か伝えたいことがあるときであるが、当時何があったかは忘れてしまった。ほんとうに飛行機にしか見えないので、笑 「これがUFO?飛行機じゃねえか」と反発する人がたまにいる。だが、宇宙人(科学の種族だが)が飛行機に乗ってたらだめだという決まりはない。だいたいUFOでケムトレイルを撒いたらパニックになるだろう。

8月23日 「宇宙人の挨拶 ? hi?」

イメージ1

飛行機型UFOが書き上げたケムアート。小文字の「hi」だろうか？だとすれば挨拶だ。笑

10月15日 「カウントダウン雲」

イメージ5

カウントダウン雲である。端からひとつずつ消えながらカウントダウンをする。何のカウントダウンかは不明だ。

10月15日 「きれいな円型ケム」

イメージ4

円形ケム。意味は不明だ。

10月15日 「溶けるる雲」

イメージ2

彼らはたまに雲を溶かす(?)。ケムトレイルは生きているのか、時間が経つといろんな形に変化していきます。

10月?日 「巨大なX」

イメージ3

うちの二階から撮ったバツ。バツは「警戒しろ」ということを示している。このときはv自宅にいたが、夕食に遺伝子組み換え作物、残留農薬が強いものを食べようとしていたのかもしれない。科学の種族（宇宙人（は思考を読む装置を持っているから、ぼくの思考を読んで、「やめろ」という意味をこめてバツを描いたと推測される。

10月?日 「巨大なX 2」

イメージ2

別角度から撮影。

10月?日 「黒いケム」

イメージ1

薄くもりの中ケムトレイルが影になって黒くみえる。

1 1月7日 「行く手を案内する線」

イメージ2

散歩中、目的地方向に向かって延びる1本のケム線。「そっちに行っても安全だよ」という意味をこめている。

11月7日 「ケム線」

イメージ1

海側から撮った数本のケム線。

12月7日 「迂回しろ」

イメージ5

宇宙人からの「迂回しろ」のサイン。当時は分らなかったが、この近辺には危険なゴルフ場があるのだ。

12月7日 「家へ帰れ」

イメージ4

「家へ帰れ」と言うサイン。この日、宇宙人がこれほど「迂回しろ」のサインを出したのは、大谷があちこちでふんだんに除草剤を撒いていたという可能性がある。

イメージ1

前にも描いていた円形のケム。何を意味するかは不明だ。あの円の下（海の方角）は安全だ、ということだろうか？この円状のケムは、60年代のアメリカ映画、ラスメイヤー監督の「ファスタープシキヤット」の中でも見ることができます。多分、ロケ地が問題なのだと思います。砂漠でロケされていたのですが、あそこはネバダ核実験場の近辺なのだと推測される。そのため、宇宙人は、あっちのほうなら安全だよ、と教えているわけです。誰か気づいたかどうかは定かではないが。

12月8日 「ただのケム」

イメージ4

イメージ3

自宅上空のケムトレイル。

12月8日 「冬のY」

イメージ2

小文字のY。終焉がま近いことを意味する。

12月7日 「学校上空のケム」

イメージ1

学校上空に浮かぶ1本のケム。

2017年1月?日 「年開け、自宅上空のケム」

イメージ5

冬になってからは宇宙人はケムアートを描かなくなった。

イメージ4

1月8日 「巨大な鳥 降臨」

イメージ1

イメージ2

鳥に見えるケムアート、2連発。時間的には数十分ほどあけて撮っています。何を意味するのだろうか？

1月?日 「輝く夕刻のケムトレイル」

イメージ2

太陽を挟んで、輝いているようで美しいです。

イメージ3

らせん状の珍しいケムアート。これには意味がある（すぐには分らなかったが）。この日、ぼくはゴルフ場が近くにあることを知らず、とあるゴルフ場の近くを散策していた。この時に大谷が除草剤を撒いていたらしく被爆した。被爆を知ったのは4日後だ。4日後に閃輝暗点がおきたのだ。

これは視界の中心が急に見えづらくなり、その中心からギラギラしたものがらせんを描きながら大きくなり、30分ほどで消える現象だ。これを見ると、すぐに不快な偏頭痛がおき、更に、2日後にはみぞおちが6時間から9時間の激痛に見舞われる。この場合、2日ほど絶食すれば激痛は避けられる。そしてうんこ水（茶色い水）が出れば完治したことになる。ただ、うんこ水には除草剤が含まれているのですぐに流さないで再び被爆する。これはすべて経験から得た情報だ。これらはすべて除草剤が原因だが、医師会はこの事実を黙認し、需要と供給の関係にある農薬企業を保護する為、「ストレスのせい」だとしている。田、畑もそうだが、特にゴルフ場、競馬場、競技場、線路、大きな公園などでは、大量に除草剤が撒かれます。みぞおちの激痛の症状が起きた際、医者になんか行かないでください。殺されますから。

そういえば気になることがあります。東京オリンピックのマークが非常に「閃輝暗点」に似ているのである。あべしは、競技場にふんだんに除草剤を撒いて、たくさんの人を殺そうとたくらんでいるのではないか。お気をつけを。とにかく、写真のらせんケムは、宇宙人が「おまえ除草剤に被爆したよ」ということを教えてくれているわけです。

2月?日 「ピラミッド型ケムアート、再び」

イメージ1

去年の同じ時期にも見た三角というかピラミッド型のケムアート。何を意味しているかは不明だ。これ以降、目だったケムアートは描かれていない。見方を変えれば、あと少しでアスタリスクになるので、「隕石落とすよ」と言う警告にも見える。



ひさびさに見た「Z」である。



これは珍しい。「反対Z」である。これが何を意味するのかわからない。単純に考えれば、「さっきはZを書いたが、やっぱりやめた」ということになるだろうか？



今日、自転車で街に行こうとしたら、宇宙人が空に3本線のケムを書いた。これは初めて見た。珍しい。こういう曲線ケムは通常、迂回しろということを示しているが、それが3本なわけで、よほどよくないコト、やつらが待ち受けていると見たおれは街に行くのをやめた。



違う角度から撮影



最初は2本線だった。それを見た時点で街に行くのをやめようと思ったおれは帰途についたが、振り返ると宇宙人が3本線ケムを書いていたというわけだ。で、その3本線を撮影した。これは世界的にも珍しかろう。本当は書いたばかりのやつを撮りたかったが、自宅にカメラを取り入っている間に時間が経ち、きれいだったケムは太くなり、若干広がっていた。

神の啓示 ケムトレイルアート写真集

<http://p.booklog.jp/book/114268>

著者：大本正 (C) 2017 masahiro taguchi

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/danejin/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/114268>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト